

# 監事監査報告書

令和5年5月19日

学校法人 清風明育社  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人 清風明育社

監事 的場勝彌

監事 田中祥光

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人清風明育社寄附行為第18条の規定に基づき学校法人清風明育社の令和4年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日）の業務並びに財産の状況について監査を行った。

私たちは、監査にあたり、理事会及び評議員会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人清風明育社の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に反する重大な事実はないものと認める。

以上

## 財 産 目 録

1. 資産総額	1,147,740,458 円
I 固定資産	946,648,754 円
II 流動資産	201,091,704 円
2. 負債総額	541,661,301 円
I 固定負債	80,000,000 円
II 流動負債	461,661,301 円
3. 正味財産 (1 - 2)	606,079,157 円

### 内 訳

1. 資産総額	1,147,740,458 円
I 固定資産	946,648,754 円
土 地	562,796,284 円
建 物	138,154,645 円
建 物 付 属 設 備	39,125,791 円
構 築 物	22,297,969 円
教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,404,660 円
管 理 用 機 器 備 品	1,116,087 円
図 書	1,407,833 円
建 設 仮 勘 定	154,458,386 円
電 話 加 入 権	507,200 円
収 益 事 業 元 入 金	18,244,599 円
保 証 金	7,135,300 円
II 流動資産	201,091,704 円
現 金 預 金	163,536,367 円
未 収 入 金	4,114,874 円
短 期 貸 付 金	2,361,101 円
前 払 金	19,738,274 円
立 替 金	1,147,921 円
仮 払 金	10,193,167 円
2. 負債総額	541,661,301 円
I 固定負債	80,000,000 円
長 期 借 入 金	80,000,000 円
II 流動負債	461,661,301 円
短 期 借 入 金	50,000,000 円
未 払 金	20,825,830 円
前 受 金	313,232,000 円
預 り 金	69,093,471 円
仮 受 金	8,510,000 円

令和4年度  
事業報告書

(令和5年6月)

学校法人 清風明育社  
清風情報工科学院



# I. 法人の概要

## (1) 教育の方針と理念

(教育の方針)

日本の伝統的信仰に立脚し、「徳・健・財」3拍子揃った姿で世の中に尽くす人材に育てる

(理念)

- ・ 達成力を育て、自信と喜びを与える学校
- ・ 社会から安心・信頼・尊敬される人材を育てる学校
- ・ 徳・健・財を兼ね備え、世直しに取り組む人物を育てる学校
- ・ 教育を通じて教職員が使命を達成する学校

## (2) 学校法人の沿革

- 昭和 63 年 3 月 学校法人オージー総合学園 設立  
 4 月 オージスコンピュータ学院専門学校 開校  
 平成 14 年 4 月 学校法人清風明育社に名称変更  
 清風情報工科学院に名称変更  
 平成 15 年 4 月 工業専門課程情報メディア学科(2 年制)  
 「専門士」付与課程認定 (文部科学大臣認可)  
 文化・教養専門課程 日本語科 開設 (大阪府知事認可)  
 平成 18 年 6 月 工業専門課程総合コンピュータ学科(4 年制)  
 「高度専門士」付与課程認定 (文部科学大臣認可)  
 平成 25 年 4 月 工業専門課程コンピュータ総合学科(2, 3, 4 年制)  
 「職業実践専門課程」認定 (文部科学大臣認可)  
 平成 27 年 10 月 日本語教師養成講座 (別科) 開講  
 令和 3 年 4 月 工業専門課程 グローバル IT 学科 開設

## (3) 設置する学科等および学生数の状況 (令和 4 年 5 月 1 日現在)

課程名	学 科 名	修 業 限 年	入 定 学 員	総 定 員	在 籍 数
工 業 専門課程	デザイン・コンピュータ学科 (4 年制)	4 年	20 名	80 名	18 名
	デザイン・コンピュータ学科 (3 年制)	3 年	40 名	120 名	160 名
	デザイン・コンピュータ学科 (2 年制)	2 年	30 名	60 名	50 名
	グローバル IT 学科 (2 年制)	2 年	40 名	80 名	61 名
	小 計		130 名	340 名	289 名
文化・教養 専門課程	キャリア専攻科	1 年	40 名	40 名	34 名
	日本語科 2 年コース	2 年	56 名	112 名	78 名
	日本語科 1 年半コース	1 年半	56 名	112 名	54 名
	小 計		152 名	264 名	166 名
	計		282 名	604 名	455 名

(4) 理事・評議員の概要（平成4年5月1日現在）

	定員	現員数	氏名等
理事	6名	6名	平岡 龍人（学校法人理事長） 平岡 憲人（専務理事 清風情報工科学院校長） 木下 肇（弁護士） 森 寛勝（宗教法人代表役員） 工藤 将人（無職） 濱田 正勝（学校法人職員）
監事	2名	2名	的場 勝彌（会社役員） 田中 祥宏（NPO 法人理事長）
評議員	13名	13名	平岡 龍人（理事長） 平岡 憲人（専務理事 清風情報工科学院校長） 網崎 勝彌（会社員） 橋本 俊洋（会社員） 森 寛勝（理事 宗教法人代表役員） 石岡 信吾（無職） 井開 陽重（会社役員） 左藤 章（前衆議院議員） 森井 英一（医師） 松久 宗英（医師） 一階 良知（IT塾長） 神前 良行（学校法人職員） 高村 幸一（学校法人職員）

理事 木下 肇は、令和4年10月に逝去しましたので、後任として北村 太道が選任されましたが、令和5年4月に逝去しましたので、理事は1名欠員となっています。

(5) 教職員の概要（平成4年5月1日現在）

	常勤	非常勤	合計	備考
教員	19名	29名	48名	
職員	26名	7名	33名	
合計	45名	36名	81名	

## II. 事業の概要

(1) 事業の目的・計画及び進捗状況と今後の取り組み

① デザイン・コンピュータ学科

令和4年度は新型コロナウイルスの影響で登校できない状況が続きました。特に夏ごろの第7波では多くの感染者がでました。そのような状況でも、当校ではZoomを用いたオンライン授業を早期より準備しており、昨年度と同様にプロアクティブな人材を目指すという学科目標をたて、学生の自発的学習、行動を促してまいりました。その結果、学生の成長、作品制作の意識向上、卒業進級制作での積極的な姿勢などが功を奏し、今年度の卒業進級制作発表会ではコロナ渦の中、100社を超える企業様に来校いただき、高い評価をいただきました。また、新入生118名という過去最大人数が入学してきたことにより在籍数も最大となりました。

就職活動に関しては、世の情勢として厳しいと言われている中で、プライム企業をはじめ、IT・デザイン・ゲーム関連の企業への内定を例年と変わらぬ推移で獲得しています。

平成 29 年度より行っているカリキュラム改編の結果が出つつあり、課題解決型（デザイン思考的）モノ作りが学生に浸透してまいりました結果、卒業進級制作展においては毎年数多くの企業様より企業賞をいただくことが出来、他の学校との差別化が図られてきています。それにより、就職のきっかけや学生たちの励みになる状況となっております。

シリコンバレー・ジャパンカレッジ（シリコンバレー日本大学）  
<http://www.svju.org/>との学術交流協定を行っている当校では、毎年アメリカに渡航していましたが、本年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。シリコンバレー研修が再開しましたら、現地での研修に臨みたいと考えています。

令和 5 年度では、昨年度も利用していた Zoom を用いたオンライン授業を併用しつつ、より一層の教育の充実を図っていきたいと考えております。

新型コロナウイルスの流行から早 3 年となりますが、当校では最初期よりオンライン授業のための環境を導入し、「学びを止めない！」取組に着手し Zoom、LAN 増強、マイクカメラ、Google Education などオンライン授業を取り入れ対応し現在に至っております。

その後の緩和に伴い、学生の体調管理チェックを毎週行い、状況を把握し、3 密対策を取りながら、登校授業型にシフトしつつオンライン授業も併用しながらハイブリット授業で対応してまいりました。

## ② 日本語科

進路に関わる進学先の実績、日本留学試験、日本語能力試験の結果という点では、残念ながら満足できる結果ではありませんでした。1 年生時に新型コロナウイルスの影響により母国においてオンライン授業を受け、2 年生時に来日した学生を伸ばしきれず、本意でない学校や学部に進学を決めた学生や、新型コロナウイルスの影響により金銭面から志望分野を変更せざるを得ない学生もいました。

EJU に関して、上位層の学生は 6 月以降伸び悩んだものの、TOEIC などの英語の外部試験は積極的に受けていました。中位層の学生に大きな伸びが見られず、上位層も含めて対策授業の見直しが必要と考えます。

学生管理面で特筆すべき点は、夏休み前の第 7 波、第 8 波の感染拡大による、オンラインでの授業運営、学生寮の管理などその対応に労を費やすことになったこと、また新校舎建設に伴うひかりビルへの校舎移転により通学経路が変わったことの影響もあり、自転車の事故が例年になく目立ったことが挙げられます。自転車同士の接触事故が年間で 3 件、自転車と自動車の接触事故が 4 件発生、その内信号無視もしくは見落としによるものが 3 件で大事故となる危険性を強く認識させていくことが必要です。

新型コロナウイルスの感染拡大の大きな波が 2 回あり、1 回目は 4 月生が来日早々の昨年 6 月に 2 つの寮で寮生に感染が拡がり、保健所指定のホテル隔離対応も行いました。2 回目は本年 1 月に断続的に罹患者が確認され、月間で 23 人が陽性判定を受けました。

アルバイトの募集はコロナ禍の影響で前半は少なかったですが、本年度の来日生がアルバイトを探し出すころからは求人も急速に回復し、自分たちのネットワークで仕事を見つけてくる学生も増えてきました。

## ③ キャリア専攻科

日本人学生が確保できない大学、専門学校が留学生確保に動いたため、キャリア専攻科の対象学生が激減し、学生募集はとても厳しい状況となりました。

学生管理面では、モチベーションを保つことが難しく、出席率も低い学生もいて、学生全体にも少なからず悪影響を与えたようです。

学業面では目標としていた EJU の点数を超えられた学生もいる一方で、ほとんど伸びなかった学生や JLPT の目標である N2 に届かない学生もいました。対策授業のクラス内レベル差が大きかったことが原因の一つと思われるので、次年度以降は再考する必要があります。

#### ④ グローバル IT 学科

学科運営面では、前年度の課題であった IT 分野と日本語分野で教員同士の情報共有や連携がとれていなかった点は概ね解消し全体で連携して進めることができました。実施した施策は、全体での講師会および勉強会を実施、slack での情報発信や共有、職員室での専任から非常勤への声かけ、IT 実技科目講師ミーティングに学科長が参加などです。課題は学科設立 2 年目ということもあり、年間通しての業務計画や時期ごとにやっておくべきことが整理できておらず、発生ベースで対応することが多かったため、今年度はそれらを少しずつ整えていくことを意識して進めましたが、まだ全てとはいかず今年度の作業を事務で整理・蓄積してくれたものを基に改良し整備していく必要があります。

就職支援では、外部キャリアコンサルタント指導の下、シリーズで就活支援研修を教員が受講し、企業目線や指導のポイントを学び 2 年生の就活支援に反映。1 年生も早くスタートが切れるよう段階的に就活準備を進めました。履歴書やエントリーシートの確認等、手がかかるものについて効率化が課題です。

### (2) 施設等の状況

#### ① 所在地

大阪市阿倍野区丸山通 1 丁目 6 番 3 号

#### ② 主な施設設備の状況

施設設備	面積	備考
校地	1,479 m <sup>2</sup>	校舎敷地 1,245 m <sup>2</sup> その他 234 m <sup>2</sup>
校舎	1,915 m <sup>2</sup>	普通教室 964 m <sup>2</sup> その他 951 m <sup>2</sup>

#### <新校舎建設について>

学生数の増加が見込まれたため、令和 4 年 11 月に新校舎の建設を決定し、12 月に着工しました。

(建設計画の概要)

- ・鉄筋コンクリート造 5 階建
- ・延床面積 851.23 m<sup>2</sup>
- ・竣工予定 令和 5 年 8 月末

### (3) その他

#### ① 日本語教師養成講座 (別科)

14 期生 令和 4 年 4 月開講	23 人	
15 期生 令和 4 年 10 月開講	9 人	



## ② ウクライナ人学生支援

当校は、ウクライナ避難民に対して日本語教育を無償で提供している「ウクライナ学生支援会(JSUS)」の活動を支援する日本語学校グループの代表校として活動している。

当校に対しても、ウクライナ人学生支援の目的で、寄付が寄せられている。

令和4年度 個人13人、法人9団体 合計 19,621千円

## Ⅲ. 財務の状況

### (1) 決算の概要

令和4年度においては、デジタルコンピュータ学科の入学生増加、新型コロナウイルスの感染収束に伴う留学生の来日等により、学生生徒等納付金収入は大幅に増加しましたが、学生増加に伴う教員の増加等により、人件費も増加したことに加えて、新校舎竣工までの間、ひかりビル（阿倍野区昭和町）を賃借して、日本語科、キャリア専攻科の教室を移転したことに伴う、賃借料を中心に諸経費の増加が大きく、赤字幅は減少しましたが、引き続き、赤字となりました。

資金収支面では、新校舎建設資金の調達について、金融機関と協議を重ねていますが、融資について前向きな姿勢を示されており、つなぎ資金の融資枠の設定を受けていますので、懸念される状況はありません。

### (2) 経年比較

#### ① 資金収支計算書

(単位：千円)

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
学生生徒等納付金収入	358,388	384,373	350,559	336,588	486,905
手数料収入	3,694	4,245	4,057	2,485	4,330
寄附金収入	0	0	0	0	19,621
補助金収入	0	3,817	1,046	0	990
資産運用収入	3	0	0	0	150
事業収入	28,924	29,512	35,830	27,764	18,757
雑収入	10,134	2,822	3,582	8,305	10,419
借入金等収入	0	0	0	110,000	50,000
前受金収入	224,373	221,860	266,629	292,228	293,285
資金収入調整勘定	▲225,826	▲253,675	▲303,250	▲246,046	▲259,929
その他の収入	116,737	169,245	160,932	234,813	287,812
前年度繰越資金	154,118	154,511	130,148	87,621	228,249
収入の部合計	670,549	716,712	649,534	853,770	1,140,589
人件費支出	232,532	237,808	251,578	275,999	320,852
教育研究経費支出	95,405	100,266	98,068	78,153	121,233
管理経費支出	76,098	68,978	67,947	53,052	99,606
借入金等利息支出	0	0	0	504	813
借入金等返済支出	0	0	0	30,000	0
施設関係支出	0	46,554	4,510	▲1,785	168,908
設備関係支出	345	339	0	1,258	0
資産運用支出	0	0	0	0	0

その他の支出	136,306	168,269	165,661	226,439	309,676
資金支出調整勘定	▲24,650	▲35,653	▲25,853	▲38,100	▲44,036
次年度繰越資金	154,511	130,148	87,621	228,248	163,536
支出の部合計	670,549	716,712	649,534	853,770	1,140,589

(注) 数値は、切り捨てで表記しています。

② 事業活動収支計算書

(単位：千円)

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	
教育活動収支	学生生徒等納付金	358,388	384,373	350,559	336,588	486,905
	手数料	3,694	4,245	4,057	2,485	4,330
	寄附金	0	0	0	0	0
	補助金	0	0	1,046	0	990
	付随事業収入	28,924	29,512	35,830	27,764	18,757
	雑収入	10,134	2,818	3,567	8,305	10,419
	教育活動収入計	401,143	420,949	395,060	375,143	521,401
	人件費	232,532	237,808	251,578	275,999	320,852
	教育研究経費	95,405	100,266	98,068	78,153	113,212
	管理経費	89,285	82,004	82,792	67,242	113,822
	その他支出	▲8,222	▲2,490	0	0	184
	教育活動支出計	409,001	417,589	432,441	421,395	548,070
教育活動収支差額	▲7,858	3,360	▲37,380	▲46,251	▲26,668	
教育活動外収入	3	3	14	21,821	28,823	
教育活動外支出	0	0	0	22,298	29,442	
教育活動外収支差額	3	3	14	▲477	▲619	
経常収支差額	▲7,855	3,364	▲37,365	▲477	▲27,288	
特別収入	8,859	3,817	0	0	25,856	
特別支出	0	9,622	10,000	7,599	25,179	
特別収支差額	8,859	▲5,805	▲10,000	▲7,599	677	
基本金組入額	0	▲58,426	0	0	0	
当年度収支差額	1,005	▲60,867	▲47,365	▲54,328	▲26,611	

③ 貸借対照表

(単位：千円)

	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
固定資産	793,044	827,886	807,550	785,233	946,649
流動資産	212,589	180,488	137,121	276,626	201,092
資産の部合計	1,005,633	1,008,375	944,672	1,061,859	1,147,740
固定負債	0	0	0	80,000	80,000
流動負債	269,329	273,990	257,653	349,169	461,661
負債の部合計	269,329	273,990	257,653	429,169	541,661
基本金	1,011,855	1,070,282	1,070,282	1,070,282	1,070,282
繰越収支差額	▲275,550	▲335,897	▲383,263	▲437,592	▲464,203
純資産の部合計	736,304	734,384	687,018	632,689	606,079
負債及び純資産の部合計	1,005,633	1,008,375	944,672	1,061,859	1,147,740